



「着からの生産」を実現している。

同時に、イタリアP.A.C.E.N.Z.A社より素材を輸入して販売を始めており、これらの素材は、全て目の届く地元京都で縫製を行い、モットーである

## 株式会社 ファイン

〒604-8277  
京都市中京区西洞院通御池下三  
坊西洞院町 565  
(ラフィエネ御池 301号)  
TEL 075-222-1901  
FAX 075-222-1908

（株）ファイン（婦人コート製造卸、笠松泰樹社長は、毛皮製品の販売から毛皮リフォームに到るまで、全てメーカーとしての動きをしており、素材から縫製加工、製品化、メンテナンスまで一貫した物づくりにこだわっている。

平成5年の会社設立から22年が経過、当初は川中（卸業態）のポジションにいて、既製品仕入れを主体とする販売を行っていた。しかし、設立から4年を経て、山形県米沢市の機屋でオリジナル素材を考案して、デザイン・縫製まで手掛け、メーカーとしての第一歩を踏み出した。その2年後には、一品種80反を超える扱いが出来るようになり、現状も軌道に乗っている。

## モットーは 一着からの生産

（株）ファインは、シルク100%モールの製品を手掛けて以来、約20年の歴史がある。モール製品の扱いに定評があり、毎年にわたって『色・プリント・デザイン』に独特の変化をつけ顧客の支持を得てきた。商品の最大の特長は、リバーシブル仕立てであること。片面が無地、もう片面はプリントと、表側と裏側では全く雰囲気の違った仕様であり、ボトムやTPOに合わせた色・素材使いが楽しめる。

### ◇徹底した熟練職人による加工

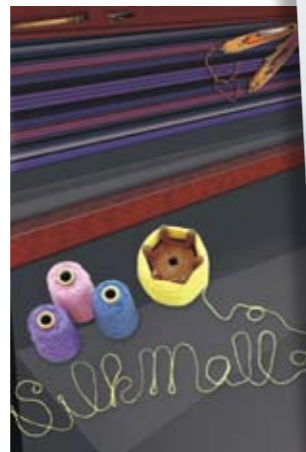
リバーシブル仕立ての加工は、反対面にプリント・無地素材とともに、お互い出ないよう、熟練の職人がハンドプリント仕上げを行い細心の注意のもと、完成された商品に出来上がっている。

### ◇素材から製品まで一貫した商品作り

シルク100%のモール扱いは、総じて加工に非常に手間がかかるが、この手間を惜まず、花糸をカッターで切り、2か所に分け、そのモール糸に撚りを入れながらポビンに巻き取って織り上げ、出来上がった生地をプリントして撥水加工する。

糸の発注から、生地ができあがるまでに約3か月の時を経て製品化するのだが、素材から製品まで一貫した商品づくりにより当社独自の国産物にこだわった「JAPAN MADE」色を如何なく発揮し、人気を博している。人気商品として、ほぼ定番化しており、今後も色のコンビネーション等に変化をつけ顧客満足度を上げ続けていく意向である。

今年2016年秋冬用の新商品は、モールの裏地付き。モール素材はリバーシブル用の生地より若干薄く仕上げているが、裏地を付けても軽く、暖かい着心地を実感できるより進歩した商品である。また、シルク素材に裏地を付けた商品扱いを増やし、裏地とシルク素材のより進化した商品を展開模索している。



## 木村株式会社

〒600-8161  
京都市下京区五条通室町東入大黒  
町 196  
TEL 075-341-1281  
FAX 075-341-1288

木村株式会社（婦人服・婦人服地・呉服製造卸、星野明栄社長）は昭和25年2月設立から66年という歴史を有し、洋装の扱いも55年以上の歴史を持つ。和装からスタートしたが、洋装部門でも業務を確立し、バランスの取れた経営を行ない、現在では扱い比率はほぼ半々の内容。和装と洋装の本柱を確立し、既往から相互が刺激し合う体制で事業展開している。

婦人服ブランドは「マダムサンク」。消費税率の引き上げから消費マインドが冷え込む中において、消費者に受け入れられる商品を作り続け健闘している。その商品ラインナップを婦人服事業担当の常務取締役、小林泰尚氏に聞いた。



## 婦人服 Madamcing (マダムサンク)

### AUTUMN & WINTER COLLECTION 開催

AUTUMN & WINTER COLLECTIONはニット製品やカットソー、ジャケット、コートなど秋から冬に向けたミセスファッションを展示した。毎年の売れ筋であるニット製品を多くラインナップし、中でも高級ゾーンはカシミヤ素材に転写プリントによる染加工で鮮やかな色彩を目立たせた。イタリー系のウールニットは暖かさを出し、インポート生地にプリントした色柄の豊富なものなどバラエティに富んだ商品企画で、サイズもLサイズからLLサイズと大きめのものをラインナップした。

織物を使った企画では、米沢の機屋さんとコラボした生地で、米沢織のコートやジャケットを提案した。さらに、この秋冬物から西陣織を素材にしたシルクのジャケットを新たに発表した。生地はシルクをベースに伸縮性を持たせるためスパン糸を4%混織して西陣の機屋が織り上げたもので、西陣織の証紙が付く。しかし西陣織の重厚感はなく、どちらかというと軽いはおり物というイメージで着用出来る仕上がりになっている。

京都の婦人服メーカーとしてメイドイン京都を打ち出せる製品が出来た。きもの併せて扱っている会社として洋品だけど和テイストが入っている洋服、東京や大阪のメーカーにはない京都ならではのファッションを全国に京都からアピールしていきたい、と小林常務は話している。



カシミヤニット



カシミヤニット



西陣織ジャケット

